

第9回 北部地区街づくり協議会 議事録

開催日時	令和元年7月29日(月) 18:30~20:10
開催場所	櫛本公民館 大会議室
出席委員	委員 17名
欠席委員	飯田委員、山口委員
事務局	総合政策課3名(岩田課付課長、藤田主査、岡本主任主事)、農林課2名(森本課長、色雲係長) 産業振興課1名(別所補佐)
議事内容	
<p>1. 開 会 ー18:30ー</p> <p>2. 市長挨拶 会長 本日はお忙しいところ、第9回北部地区街づくり協議会にご参集くださりましてありがとうございます。地域の支え合い、周遊観光、モノづくりとそれぞれにおいて着実に成果をあげていただいているのが、櫛本でございます。本日はその進捗状況を確認させていただき、地域と行政が連携をするなかで、どういった展開をしていけばいいのかということをご意見を伺いながらしっかりと進めていきたいと存じます。</p> <p>3. 新委員の紹介 櫛本町市場区長 大塚 信広 様 櫛本小学校PTA会長 松原 弘光 様 奈良県ならの観光力向上課長 桐田 健吾 様</p> <p>4. 議事録の承認 第8回協議会の議事録につき、異議なく承認された。</p> <p>5. 議 事 以下、議事進行は会長が進める。 (1) 周遊観光 ①今年度の櫛旅について 委 員 今年度で第5回目を迎えます。前回の北部活性化プロジェクトで、10月27日の日曜日に開催することに決まりました。詳細については、午前9時にJR 櫛本駅に集合していただき出発します。参加募集の人数は、200名くらい集まればいいかなと思っていますが、例年、予定してい</p>	

る人数より少ないことが多いのが現状です。

コースについては、資料の2ページにありますように、櫛本駅を出発して、まず西に添上高校まで行き、そこから高瀬川の方まで南に行き、そのまま極楽寺の方まで行きます。先日、下見をしましたが、極楽寺には柿本寺の宝物があり、法要がなければ拝観させていただけるようで、柿本人麻呂の仏像や涅槃図録のようなものを見せていただけるとのことです。そして、そのまま真っすぐ行きまして、上街道のかどやのところを北上していき、長林寺、檜神社、花餅屋まで行き、そこから東に行き、森本町の霊仙寺、森神社、そこから斜めの道に流れていくのですが、この道が狭いので、一旦戻ってから森本の交差点を少し南に行き、そのまま東のお墓に行く道を上っていきたいと思っています。そこから和珥坂下伝承地と、和爾坐赤坂比古神社、高塚公園、東大寺山古墳、それから赤土山古墳へ行き、公民館へ向かいます。下見をしたところ、9時に出発して、12時頃までかかりました。12時頃に公民館でまこもご飯を食べていただこうと思います。

前はフォークソングなどの歌のショーをさせていただいておりましたが、櫛本に狂言に携わっておられる方がいらっしゃるので狂言の公演はどうかと提案があったので、その方にご依頼させていただいて、晴れたら公民館のデッキのところで、もし雨が降った場合にはこの大会議室を使わせていただいて、今回は狂言を開催することを考えています。

前回ともう一点違うところは、模擬店のテントを18張ほど張らせていただいていたのを、予算や人員配置の面から、今回は蔵之庄町でやっておられるトラックマルシェのようなかたちで、出店者各自でテントを出していただいたり、トラックで販売していただいたり、キッチンカーで来ていただいたりということを前提に、公民館日より「つながりの輪」に出店者募集の掲載をさせていただこうかと考えています。

今回の櫛旅の大きなポイントとなるのが、クイズラリーとスタンプラリーを併行してやるということで、櫛本の界隈をより親しんでいただきたい。そして、以前に作らせていただいた「らく櫛 らく蔵」という昭和の初めから30年頃までの商店の地図があるので、これをもとに歩いていただくことを考えています。また、昔に商売をされていた方のご自宅に当時の写真などがありましたら協力していただき、「うちは畳屋です」、「うちは提灯屋でした」と、軒先などに掲示していただけたら、歩いていただける方に櫛本の良さを分かっているだけだろうと思っています。それと、資料の方にはフォトウォークをやるということも書いていますが、これから内容をよく精査して実施できればと思っています。

今回の櫛旅で大きく変わるところを整理すると、狂言をやるということ、模擬店をトラックマルシェのようなかたちでやるということ、それから、櫛本の古い軒並みを歩きながら写真を見ていただくということで、そのようなかたちでやっていきたいと思っています。

会 長

第5回の櫛旅ウォークの進め方などについてご説明がありましたが、皆様からご意見等ありませんでしょうか。

委員

模擬店をトラックマルシェのようなかたちでやるということですが、食べたりするには、やはりテントはいるのではないのでしょうか。テントは公民館などにもあり、10張ほどは用意できると思います。協力させていただきますので、またおっしゃってください。

委員

ありがとうございます。まこもご飯はできれば室内で食べていただければどうかと思っています。狂言については、晴れていればウッドデッキのところにブルーシートを引かせていただいて、見ていただければと思います。当日の参加人数によってまた考えていきたいと思っています。

会長

昨年のこどもハローワークについては、今年もやっていただくのでしょうか。

委員

櫛旅の内容がしっかり定まってから、決めていこうと思っています。

委員

小学校との打ち合わせはまだですが、なかなか見る機会のない狂言を子どもたちに鑑賞してもらおうということと、協力していただけるのであれば、櫛旅ウォークで到着されたときに歓迎セレモニーのようなものをして、それを子どもたちの地域貢献とできればいいかと思っています。昨年の模擬店のお手伝いについては、外からは子どもたちの姿があまり見えなかったりもするので、今年は子どもたちが歓迎セレモニーをして、そのあと子どもたちも狂言を鑑賞するというのはどうかと考えていました。

会長

子どもたち自身が色々と体験する機会を考えていただけるということで、ありがとうございます。

②櫛本駅前観光案内看板について

委員

たしか平成13年、14年頃に設置されたもので、現在は何が書かれているかわからないぐらい古くなっているのですが、北部活性化プロジェクトで会議をするたびに、きれいになればいいなということをお話しておりまして、令和元年度の商工会の地域魅力づくり支援事業というのがありまして、県から4分の3の補助金が出て、最大300万円なので、商工会から100万円だせば400万円の事業ができるというものです。商工会としては、北部・中部・南部と3つのエリアに分けさせていただいて、50万・100万・100万・50万と全体で300万から400万というかたちで計画をして、6月20日頃に県へ申請をしました。7月の中旬に採択され、北部では看板に使いたいと申し上げていたので、50万円の予算がつくようになりました。見積りもとって、看板の表と裏を作らせていただいて、看板の製作費として取付け込みで15万円、鉄柱が錆びていたりペンキがはがれていたりしている部分の修繕に25万円かかります。両方合わせて消費税込みで43万2千円

になります。あと、デザイン制作費がかかるので、予算の 50 万円を超えてしまう見積りになってしまいますが、我々が鋳取りをしたりすればいいという心づもりで考えておきまして、できるだけ櫟旅の地図を基本とさせていただいて、その周りに観光名所の写真を載せられたらと思っています。裏面は櫟本駅の駅舎や櫟本に関する由来などを記載させていただいて、文章ばかりになってしまいますが、来られた人が櫟本ってこんなところなんだなと知っていただける内容にしようと考えています。

会 長

看板自体の中身はどのように整理していかれるのでしょうか。

委 員

看板については、北部活性化プロジェクトの中でみなさんと計画しながら、市の総合政策課でも検討していただければと思っています。近畿大学の学生さんのご協力も得たいということ寺川先生にもお話していたのですが、学生さんも卒業されて毎年代わっていくので、できればこちらである程度まとまったものを作製できればと思っています。

会 長

整理されたものを新たな学生さんが見られたときに、どれだけわかりやすいかなどチェックしていただいたりもできそうですね。

櫟本駅前観光案内看板について、何かご意見等ありますでしょうか。

委 員

現在の看板の裏面には、天理市で作成された文面が載っているのかと思うのですが、独自にこちらで製作してよろしいのでしょうか。

委 員

駐輪場の注意事項が記載されていますので、残しておかなければならないのかなと思います。

会 長

確認をしまして、活用していただける部分に関しては協議をして作製していただければと思います。

委 員

現在は商店名が記載されていないので、皆様のご承認がいただけましたら、掲載する商店を募集して料金が発生するかたちでやっていけたらと思っています。

会 長

商工会が主導でやっていただくことですので、個別の店舗の掲載について事務局として問題はないですね。

事務局

問題はないです。

会 長

載っているところと載っていないところがあるということになった場合、仕切りの部分は商工会へ

お任せしたということによろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

(2) モノづくり

①まこもたけの発信

事務局

まこもたけの発信については、前回の2月の協議会でもお話させていただきましたとおり、昨年の10月25日に櫛本小学校において学校給食で全校生徒に提供させていただいたところです。メニューですが、資料の3ページをご覧くださいと、左下にまこもきんぴらとございます。1食あたり25g使用して375食を提供させていただきました。古川代表理事から小学校5年生を対象に4時間目の授業で、まこもたけについて、実際に子どもたちに見てもらいながらご説明いただきました。今年度は、昨年度に好評だったことも踏まえて、福住中学校を含む天理市の全小中学校で実施したいと考えております。日程は10月17日木曜日です。10月30日の水曜日については、市内3中学校で提供したいと考えております。分量については、小学校では1人当たり8gで3100食を、中学校については10gを1400食で、メニューは味噌汁で実施します。

営農組合の取組みとしては、前回の協議会でもありましたが、作付面積が4700㎡であったのを、今年については7400㎡ということで、作付面積を増加してやっていただいたところです。昨年からはまこもたけの葉をお茶と青汁用として販売されております。昨年については、奈良の事業者に1t販売しました。

会 長

ありがとうございます。今年は、櫛本小学校1校のみならず市内全小中学校に提供ということですが、古川委員から何か追加でご説明がございましたらお願いいたします。

委 員

ふるさと納税の返礼品として採用していただいて、すでに結構予約申込みが来ています。あとは、昨年に引き続き、料理屋さん4店舗ほどに提供していきたいと思っています。

会 長

順調に作付面積も増やしていただいているということで、販路も広がっていけばありがたいと思っていますところでございます。突然ですが、桐田委員はまこもたけについてはご存知でしょうか。

委 員

先日、前回の議事録を送っていただいて拝見させていただき、実のところインターネットでこういうものだと知りました。申し訳ございませんが、それまでは存じ上げておりませんでした。

会 長

知っていただく機会になったということであれば、ありがたいです。櫛本のみならず皆様方に知っていただくことからまずやっていかなければと思っています。また、県の方でもお力添えをよろしくお願いいたしますと存じます。寺川先生、まこも茶についてはその後どのような感じでした

ようか。

委員

今日の協議会でも出していただいているこのお茶がまこも茶です。最初まこも茶を作るときに、近畿大学でお手伝いさせていただいたのですが、建築学部でラッピング、薬学部で成分分析をやらせていただきました。私も現在どうなっているのか、後で伺いたいと思います。

委員

北田さんがこの場におられたら良かったのですが、北田さんはお茶の販売をしていただいている、また、古川さんは刈込みで販売されているということですね。

委員

はい。奈良市の業者へ葉っぱを刈り取って販売しています。昨年の分より増やして、今年は2t欲しいとのことでした。青汁とお茶用です。

会長

有効的に活用の幅が広がっているということで、ありがとうございます。

②農業関係の取組み

事務局

特産品のPRということで、これにつきましても昨年から引き続いて、餃子の王将の市内2店舗におきまして、天理市産のトマト、オクラ、ナスを使用した「てんりな華麗ラーメン」、それから「てんりなま〜ぼ」ということで、販売を行っていただいております。期間は昨年よりも少し延長していただきまして、7月1日から8月31日までとなっております。トマトとナスにつきましては、中央卸売市場のほうで天理市産を購入いただきまして、オクラについては荒蒔店では東井戸堂町の田中さん、天理インター店では中之庄町の平田さんから購入いただいておりますが、今年度からは、天理市産のトマト、ナス、オクラともに天理青果さんで購入になりました。昨年の売上げは荒蒔店では併せて約760杯、約42万円。天理インター店では約520杯、約29万円となっております。今年度につきましては、7月27日土曜日現在で、2店舗ともに各100食ということ。今後も様々な企業に協力を求めながら取り組んでまいりたいと考えております。

会長

8月末まで食べられるということですので、天理インター店が近くにありますので、ぜひお召し上がりいただければと思います。今後も皆様のお力添えをよろしく願いいたします。

(3) 地域の支え合い

①町力塾、夢応援プロジェクトについて

委員

今年度の夢応援プロジェクトの夢“ひらく”プロジェクトについては、トラック協会に協力をお願いしているところですが、物流に関する仕事の紹介と交通安全をセットで、子どもたちに実

際にトラックを見てもらって、大きさや内輪差を感じてもらえたらと思います。櫛本小学校で私と同級生であった、大和郡山市の川端運輸の社長のところへ櫛本小学校の校長と森田委員の3人でお話伺いました。前向きに検討していただいておりますので、夢ひらくプロジェクトについては、その方向で進めていきたいと思っています。また、子どもたちに例年、将来何になりたいかと聞いていても同じ職業ばかり出てきており、子どもたちが今知っている職業も少ないのではないかと、町力塾で「お仕事紹介」というプリントを渡して、気付きが生まれるような工夫を先生の協力を得ながらやっています。

町力塾については、資料5、6ページの参加者推移でどれだけの子どもたちに来ていただいているかということがわかりますが、学年ごとにカラーというものがあって、ものすごく前向きで元気な学年、少し静かで落ち着いた学年というのがあります。小学校の先生方の全面的な協力もあり、しばらく甘えてお任せしていた状況でありましたが、町力塾に行っても私たち地域の人たちの顔を子どもたちが忘れていって、これは違うのではないかと思い、先生方にお話すると、非常にありがたいお話ですということで、7月5日に4年生と5年生を対象に森田委員とプレゼンに行ってまいりました。そして、7月8日に第1回目の町力塾が開かれましたが、資料のとおり少し参加人数が少なかったのも、非常にながかりしていました。そこで、また一つ思っていることがあります。町力塾に来ていただきたい生徒というのがおありまして、今のところその生徒たちは来ていませんが、来ていただけるように何か仕掛けが必要ではないかということで、校長に相談したところ、先生方が全面的に協力していただけるとのことで、各担任の先生に来ていただき、子どもたちと一緒に遊んでコミュニケーションをとっていただくということで、仕掛けをしたので、夏休みは子どもたちがたくさん来ていただけることを期待しています。名倉委員には毎回、町力塾に来ていただいておりますので、何かご意見いただけますでしょうか。

委員

先ほどもありましたように、学年のカラーがすごくはっきりと出ていて、5年生はものすごく静かに取り組んでいて、6年生は少しざわつきながらも一所懸命取り組んでいるという様子です。やはり町力塾の素晴らしいところは、主体性重視ということで、自分たちの意志で来ていること、友達と誘い合わせて来ることによって友達関係も深く絆ができてくること、そして短時間で集中することといった、様々な要素が含まれているところです。子どもたちにとってすごく充実した時間を過ごしていて、こういった取組みは他に例を見ないことであると思います。そして、近藤委員がおっしゃられたように、町力塾は全体の子どもたちのことを考えているけれども、一人一人の子どもたちの動向にも目を向けて、目的をもって進めていっているという、細やかな心遣いがされているので、これからもっと参加する子どもが増えていくと思います。昨年の2月、3月と驚異的な参加率を叩き出しているのも、乞うご期待ということで今後も楽しみにしています。

②夢ふれあい茶屋について

委 員

もともこの事業を始めたきっかけが、高齢者の健康と子どもたちの安全をマッチングできないだろうかということで、校長から話がありました。これまでは、角ごとに立っていただいて、子どもたちを見守っていただいていたのですが、それを延長して、集団登校の場所から学校まで子どもたちを見守りながら歩いていただき、登校後、見守っていただいた方々に、コミュニケーションを図っていただくということで、お茶屋を開いていただくという画期的な活動をしていただいております。当初は、毎日来ていただくのも申し訳ないので、週に1回か2回程度を予定していましたが、ありがたいことに毎日来ていただいております。非常にありがたいことですし、毎日来ていただいていることによって子どもたちも親しみをもち、逆に子どもたちがその方々が登校時に来るのを待っているようになってきているとのこと。そして、3年生の授業の時間で、感謝の気持ちを伝えようということで、見守っていただいている方々へのお礼の言葉を書いいただきました。先日のふれあい茶屋でそれを伝えていただいたところ、涙ぐんでいらっしゃる方もおられたとのこと。お互いにありがたいことだと喜んでおられます。また、毎週水曜日はおはぎの日で、天理にある紅乃屋さんの全面協力のもと、人数分のおはぎをいただいております。みなさんに支えられながら、行っている事業でもありますし、感謝し合いながら成り立っています。この夢ふれあい茶屋を行っていることで、助けられたことがあるのですが、ある子どもが先生から注意を受けて、先生の目を盗んで勝手に学校を出てしまったときに、見守りに来ていただいている地域の方が近くで見つけられて、その子どもに声をかけてくれました。いつも見守りのときに付けている腕章をその方が子どもに見せると、その子どもはそれ見たことあるわと言っていたそうで、その方はおばちゃん学校に送って行ってあげるわと、学校へ送り届けてくださいました。見守りの方に、子どもも学校も助けられたという出来事です。なかなか簡単にはお節介もできないし、気軽に子どもに声をかけるのも疑われてしまう時代ですが、こういった事業を行っていくことで、子どもたちも不信感を抱かずに受け入れてくれます。こういった環境は、一昔前のように戻っているのではないかと思います。

会 長

町力塾の夏休みの開催はいつですか。

委 員

資料にもあるのですが、8月2日、8日、22日、28日に開催します。2日、8日、22日は、5年生、4年生、6年生という順番で、9時、10時、11時と順に、午前中の開催となります。28日は3学年合同で行います。町力塾自体は2部制になっていて、それが終わって11時から塾長に、夢“かたる”プロジェクトとして、自分の夢を子どもたちに向けてお話していただき、それから民生委員の方を中心に町力食堂ということで準備していただいて、子どもたちや塾長らが一緒にカレーを食べます。冬休みはこの大会議室でやりましたが、夏休みは天気良ければテラスでやります。

会 長

天理市の中でも、なかなかこれほど地域と連携した見守り、学習、世代交流というのはございませんので、ぜひ続けていってもらえればと思っております。

委 員

子どもと保護者の方の意見というものが、この場ではあまり出ていないので、PTA会長であります松原委員から町力塾などに対する意見について聞いてみたいと思います。

委 員

子どもたちから、このようなことがあるというのは直接聞いておりますし、保護者の方からもよく聞くので、地域とのつながりという面ですごく良い取組みだと思えます。しかし、PTAの中でもしっかりと知っておられるのは、まだ半数ほどというのが現状です。どういった目的でやっているのかということなど、周知がもっとしっかりできれば、広がってさらに良いものになるのではないかと思います。私もPTA会長として、役員の方々だけにはなってしましますが、お伝えはさせてもらっておりますが、全てのご家庭にお知らせするというのは、なかなか難しいのが現状で、イベントなどの際にはしっかり伝えていくというのが重要だと思っております。

委 員

自分自身が15年ほど前にPTAをやっていたときは、学級崩壊のような状況になってしまっていた頃なのですが、やんちゃクラブというのをづくり、毎月1回、たしか第2土曜日に、クラスの子どもたちを集めて遊ぶ会をしていたのですが、そのときも同じで、子どもたちの間で広がっていくまでに親の認知や周知がないとなかなか広がらないということがあったので、松原委員もおっしゃられていますように、今も近藤委員や森田委員をはじめ、様々な方が関わって様々な事業を頑張っていただいているので、親に知っていただいている事は、少しもったいないかなと思います。まちを挙げてやっていこうとなると、保護者への周知や参加などそのあたりが必要ではないかと思います。

委 員

最初の立ち上げの時に、PTAの役員会に参加させていただいて、町力塾はもちろんたくさんの子どもたちに来ていただきたいのですが、家庭環境の様々な子どもたちがいる中で、まず、子どもたちが地域貢献をすることによって、町力塾に来る権利を得て、自主的に町力塾に参加することなのですが、私とそのPTAの役員会で保護者の方々に、町力塾っていうのがあるから、あんた行きやということと言わないでほしいということをお願いしました。それはなぜかというと、自分が子どもの時のことを思い出すと、親や先生に勉強しなさいと言われると一気にやる気がなくなってしまいました。これは、みなさん同じ経験があるかと思えます。要は、子どもが自ら地域貢献して権利を得て、自ら町力塾に来ることによって、子どもは自主的に勉強することを目としています。1年生から6年生までの漢字のプリントがあり、勉強が苦手な子どもも1年生の漢字のプリントで100点を取れる。そうすることによって子どもはすごく喜んで頑張るし、自信もつきます。それによって勉強が嫌いだった子ども好きになったりするので、そういう

ことを目的とした塾でもあります。そういったことから、もちろん保護者の方々への周知もそうですが、一番の目的は子どもたちの自主性だと考えています。

会 長

自ら学ぶ姿勢を大事にしたいという非常に重要な点をおっしゃられていたと思います。その部分も含めて、もっと保護者の方々の中でも認識がさらに広まれば素晴らしいと思います。なにかよく分からないけど町力塾というのに行っているなということではもったいないということですね。また、PTAの皆様の中での周知といったときに、仕事が増えるのではないかとネガティブな感じになってもだめだなと思うわけでありますが、やはり学校と地域がこういうかたちで取り組んでいるということをまずはぜひ知っていただく機会があればと思います。実際に役員さんが見に行かれることはこれまであったのですか。

委 員

PTAとしては、そういう関わりはありませんでした。

会 長

その立ち上げ当初の説明会で、森田委員や近藤委員から話を聞くことや、子どもから間接的に聞くことはあるが、ご自身でそれを見られたということはそれほどなかったりするということですね。

委 員

そういうことです。

会 長

その点はいかがでしょう。

委 員

PTAの広報紙が年に3回発行されているので、そこで紹介をしていただければと思うのですが。

委 員

これまで何度か紹介はさせていただいております。おそらく保護者の方は町力塾というのがあるということはほとんどの方が知っていただいていると思います。しかし、どういった目的で行われているか、子どもたちの自主性をメインで考えておられるということなど、しっかりと大事な中身まで分かっておられない方が多いです。自分の子どもにも、行って見たらどうかという話はしていますが、公民館まで少し遠いことや、仲の良い友達が行っていないからということで、町力塾の目的についてなどまだ伝わっていないというのはあると思います。

委 員

PTAの広報で何度か紹介していただいているということで、もう一度内容について、担当されている方と打ち合わせをして、目的などについて保護者の方々にしっかりと知っていただき、理想としては、その活動について親は知っていて、行ってきた子どもから親にまた報告もあるというようなスタイルにできればと思います。

委員

広報紙についても方法を考えて、大人からの発信だけではなくて、実際に行った子どもからの意見やこういうものだったよという言葉載せていったらいいのではないかと思います。

委員

子どもたちが地域の行事などで地域貢献をした際に、招待状を渡していますが、それを親に見せないのでしょうか。

委員

そういう子どもの中にはいるということだと思います。

会長

実際にこの櫛本のプロジェクトはすごい事例だと思っております、施政方針演説を含め、ありとあらゆる機会に言い続けているのですが、どの校区もまだこれに続けていません。なかなかこれだけのことはできないですし、コンスタントに全学年の3割以上の子どもたちが参加しているということは素晴らしいことで、しかし、世の中では子どもたちの放課後の過ごし方であったり、授業以外の課外の勉強時間が極めて少ない子どもと、塾などにたくさん行かせている子どもとの間に非常に落差が出たりしている中で、こういうことをやっていかなければいけないという思いは皆さんにあっても、そこで誰がやるのかというコーディネートの部分も含めて、これができている今の櫛本のすごさであり、もし保護者の方の中でも、こんなすごいことがあるということをご存知いただいてないとしたら、非常にそれはもったいないことかと思えます。そして、それを知ったから、自分の子どもに行け行けと言って自主性を損ねるという意味での知ってくださいではないかもしれませんが、保護者の方々も、学校や地域と一体になって盛り上げていこうという気運が出てくるのはいいかなと思います。今のお話の中で、お子さん自身の体験の声というのを保護者に知っていただく機会があればということでした。このように本日、率直に問題意識を共有できたことは、非常に大きな成果だと思いますので、どのように保護者の方々の気持ちも巻き込んでいくかということも、これからぜひご議論いただけたらと思います。

委員

様々な活動が蓄積されてきているなど、毎回会議に参加させていただきながら感じているところですが、私は2014年の11月から参加させていただいておりますので、5年経ったということになります。色々なまちに入って、20年程ずっと参加していることが多いのですが、大体まちに入って5年目というのは非常に重要な時期で、その時に活性化するまちと停滞するまちというのが見えてくる時期です。そういう意味では、このまちは活性化が進められているのだろうと感じています。そして同時に活性化というのは、ある意味で醸成期でもあります。逆に言うとルーティン化して色々なことをやるのが目的になったりすることが増えてくるのがこの時期です。そういう意味では、いまのお話ではうまくいき始めていることも多いですが、もう一度、今まで何をやってきたか、何を目標にやってきたのか、やることが増えていく、人が本当にそこに参加しているのか、情報は伝わっているのか、そういうことを整理するいい時期なのかなと感

じました。情報や人材、地域資源のいい意味での見直し期にいま来ているのではないかと思います。5年前に思ったこと、いま社会情勢や人材がどうなっているのかという変化も含めて整理するのが重要で、新しい情報やいろいろなまちで様々な活動が増えてきており、このまちも最先端の活動をされているのですが、他のまちも結構頑張っていますので、情報をどんどん入れていただきたいと思いました。我々、近畿大学の学生も5年目なので、単に私がいまここに座っているだけではなくて、新しい学生ですが、3年生で奈良に住んでいる学生2人が参加したいと言っているのも、もし可能であればこのまちでやってきた5年をみなさんと彼らと一緒にまとめることができたらと思いました。特に学生については、空き家の問題もはじめて出ていましたが、制度や法律も大きく変わってきていますので、いま改めてやれることがあるかもしれません。いま社会も変わってきていることでいうと、SDG's が社会全体に広がっていき、観光の問題もかなり変わってきました。国でいうと、Society 5.0による新しい情報技術も含めて、大きく時代が変わっていつている時期ですので、地道な活動とこれから動き出すものがうまく繋がればいいなと思っています。今みなさんでされていることが私の中で最先端だと思っている一つの理由が、計画を作ってアクションしていく、決めたことを順番に行動に起こしていくオーダーフロー、上から下へおろしていく吊り型というやり方で、ここではやっていません。逆に言うと、活動してみる、やってみる、それがどんどん色んなものに生まれ変わったり、繋がり出したりしていることが、このまちの一番大きな特徴で、アジャイル型の方式と呼ばれているのですが、社会で大きな方法として認められて広がってきています。そのような良さも皆さんに知っていただければと思います。

③みんなの図書館について

委員

今、寺川先生がおっしゃられたアジャイル型のいちばん最初の事業が「みんなのとしょかん」です。つまり、先ほど近藤委員から説明がありましたが、樫本こども夢応援プロジェクトで行っている「町力塾」、「夢応援プロジェクト」、「夢ふれあい茶屋」といった様々な事業のなかで、いちばん最初に実施した事業が「みんなのとしょかん」になります。

PTA会長を務めていた頃、校舎の4階に図書館があったことを知りませんでした。ちょうど今の樫本小学校の伊勢校長が就任されて2年目でしたが、学校内も荒れていたような時期で、図書館は少しやんちゃな子の集まる場となっていて、低学年の子どもたちが使えなかったのも、学級文庫を充実するというのを学校の方針でやっておられたのですが、図書ボランティアさんをしていただける方はいらっしゃらないですかと校長から聞かれて、長寿会の深川会長にお願いをして、図書ボランティアを募っていただきました。それからすぐさまボランティアの方々が来てくださり、毎週火曜日と金曜日に図書室を綺麗にいただき、3年前にプレで樫本幼稚園の年長の子どもたちに来ていただくというところから始まりました。学校地域コーディネーターの木戸さんに読み聞かせをしていただいていたのですが、今はその読み聞かせを見て、小学校の児

童が来られた幼稚園児に読み聞かせるということをやっています。図書館前の廊下には投句箱を置いて、子どもたちが俳句を作ったりもします。

昨年の実績では年間 11 回、だいたい月 1 回から 2 回、櫛本幼稚園の園児や預かり保育の子どもたちに図書館を開放しており、時間は 1 時間程度です。校長から子どもたちにプレゼントを用意しているので、子どもたちもまたそれを毎回楽しみにしています。今までは年長のみでしたが、兄弟がいる家庭もありますので、年中、年少の子どもたちも一緒に来ていただくようになりました。もちろん保護者の方も一緒に来られます。そういった中で、保護者の方々に向けて大人の本コーナーも作るようになりました。PTAの予算から雑誌などを数冊用意していただきました。今年度はすでに 4 回開催済みですが、参加人数もかなり増えてきました。これまでは櫛本幼稚園からだけでしたが、年明けの 1 月から北保育所からも来ていただくことになりました。カレス学園には話をしに行っている状況です。

子どもたちが小学校に入学する時にはすごく不安を抱きますが、その不安を和らげるために、みんなのとしょかんでは小学校の図書委員の児童が手を引いて 4 階の図書館まで連れていってあげます。それを経験する園児達は、小学校に入学するのが楽しみにになります。それがみんなのとしょかんの目的です。現在もっとこの図書館を地域の方に開放したいという方向で動いています。天理図書館もありますが、この櫛本の地域の方が小学校に来て、大人の方にも本を借りていただけるようにと考えております。PTAの予算だけではなかなか本の購入ができませんが、大人の方が読めるような本を充実していきたいと思っています。

天理市地域総活躍まちづくり提案事業助成金の活用については、櫛本こども夢応援プロジェクトで実施してきた事業や櫛本の地域でしかできていない事業を他の地域でも実現できるような手引となる本を作成したいと思っています。櫛本だけではなく天理市自体が子育てしやすいまち、また高齢者も住みやすいまちにしていけば、これから先も人口も減っていったりしないのではないかとということで計画をいろいろと行っておるところです。

会 長

みんなのとしょかんでは、幼小連携も含めて非常にいいかたちで発展してきているということに加えて、先ほどもあったように意外にその趣旨について保護者の方でも知らない方がいらっしゃるというお話もありましたが、これまでの歩み、どういったものを目指されてきたかということの本にまとめてみようということで、きっとそのまとめられる過程で、気づきがまた出てくるのかなというようにも思っておりますが、皆様からご意見等ございますでしょうか。

委 員

先ほど松原委員からご指摘のあった趣旨や目的ということに関して、もともと子どもは地域の宝という大前提があり、その宝を守っていくのが地域ではないか、もちろん保護者にも責任があります、みんなで守っていくということが大きな趣旨であり、そしてまた小学校は地域の財産であると言っていていただいております。地域の財産を地域の財産に預けているわけです。それを地域が守るといのが大命題で、本を書き進めていくなかで、このことについて再認識しました。

会 長

天理市地域総活躍まちづくり提案事業助成金を活用するということも含めて、この北部地区街づくり協議会の皆様方の総意としてそういったことは非常に大事なことである、ということであればぜひ積極的に検討をというように思っておりますが、いかがでしょうか。そういった歩みのところを、先ほど寺川先生からも今が見直しと次なるステップに向けていい時期だというお話もいただきましたが、その点も踏まえていかがでしょうか。

委 員

まさにそういう時期でありますし、見える化が一番大事だと思います。これまでやってきたことをどう発信するかということだと思っておりますので、今おっしゃられていた本を出すということは非常に重要なことだと思います。それと同時に、どういった人が参加しながら本の中に思いを汲み込むかということも大事なので、そういった意味で言うと今作られている本とこのまちのこれまでの活動や何が生まれてきたということも含めて、本の作成をきっかけにやってきたことを共有化すると非常に良い機会になるのではないかと思います。

会 長

この街づくり協議会としてもこの事業を応援していくというかたちでよろしいでしょうか。天理市地域総活躍まちづくり提案事業助成金を活用していただく方向性について、この協議会でご承認いただいたということで進めさせていただきます。

④活脳教室について

会 長

いま、認知症予防に関して成果連動型というものを日本初で取り組んでおり、注目をいただいている事業でございます。先般、財務副大臣が論調になっておられます持続可能な今後の福祉のあり方というところで、私プレゼンもしてきた中身ですが、やはり市内の状況を見てまいりますと、高齢者の方が4名に1名であります。そのうちの5名に1名が要支援ないし要介護でございます。そして、その要介護の認定理由のレベル1から5までのすべてでトップが認知症というかたちになっておりまして、今後の対応の中で非常に大事だということで、慶應義塾さんと公文さんと一緒にメディカルセンターを拠点にして、これまではやってまいりました。実際に取り組んでいただいた方すべてが、現状維持ないし改善という結果が出ておりまして、8割以上の方に実際に成果が出たと慶應さんが認めた場合に限って、公費を支出するというめずらしい後払いの制度をとっております。ただ、メディカルセンターでございますと、遠くて櫛本から行けないということであったかと思っておりますので、今年は中心部から少し離れた櫛本も含めた5つの公民館で展開しておりまして、5月28日から11月19日までの約半年、受講生が20名、サポーターが8名というかたちでやっております。サポーター1名に対し受講者が2名というようなかたちで、簡単な数字の計算や読み書きをやっていただいておりますが、事前に説明会に来ていただいた方々は聞いていただいたと思います。やはり、認知症について正しい理解をしていかないといけない

と思っております、例えば無理に複雑な計算をしても脳はあまり動かない、定められた時間に非常にシンプルな計算をリズム良くやっていった方が脳全体がいきいきして来たり、短時間の記憶については認知症の方や認知症かなと思わしき方にお話をうかがうと、昔のことはすごく良く覚えているが、最近のことはすぐ忘れるという話が多いのですが、これは忘れていたのではなくて、そもそも頭に入っていない。つまり短期記憶が失われたのではなくて、最初にきちんとしたプロセスで頭に記憶されていないのです。そういったことも踏まえていながら行っております。樺本については、サポーターの方も本当にたくさん集まっておきまして、今順調に動いていてるところでございます。ぜひとも、天理といえば活脳教室というぐらいに広めていきたいと思っている事業でございます、またサポーターに高齢者の方もいらっしゃれば、若い方も来ていただいて、これもまた今何か地域の中で動いている事業と連携ができたらと思っておりますので、実施の状況などについてもご関心ございましたら、皆様に見に来ていただく機会があれば大変ありがたい次第でございます。脳も身体と同じでリハビリのように動かしていくと、しっかりと活性化いたしますので、ぜひこの事業についても継続的に今年やってみてどうだったのかということをご共有させていただきたいと思っておりますので、もし周りで気になられる方や、あるいはサポーターとしてやってみてもいいよという方がいらっしゃいましたら、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

6. 閉会 -20:10-